

## クルマサヨリ *Hyporhamphus intermedius* (Cantor, 1842)

サヨリ科 Hemiramphidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD)/ 西部 情報不足(DD) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー情報不足(DD): 環境省カテゴリー 準絶滅危惧(NT)]

### 1. 種の解説

全長約 20 cm のサヨリ科魚類。体は細長い。下顎が嘴状に伸長し頭長より長く、下顎下面は黒い。一般に繁殖期は 4 月下旬から 8 月上旬で、アマモ場などの海藻やヨシなどからなる抽水植物帯に産卵し、生後 1 年で斃死する。表層を泳ぎ、カイアシ類やミジンコ類などの動物プランクトンを摂餌する。県内における生態の詳細は不明である。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島南部から黄海、東シナ海、南シナ海を経てベトナムまで、国内では青森県以南の本州、北九州に分布する。県内では西部の浜名湖、その流入河川の都田川河口及び佐鳴湖で確認されている。

### 3. 生息環境

海水の影響を受ける湖沼や河口域が発達した比較的大きな河川の河口の汽水域に生息する。浜名湖内ではアマモ場で見つかることが多いようで、仔稚魚はアマモ場やヨシ帯付近で成長した後、9 月頃に河口近くの水域に移動すると考えられている。

### 4. 生息状況

県内では浜名湖及び都田川河口、佐鳴湖から記録されているが、確認頻度は低い。

### 5. 減少の主要因と脅威

アマモなどの水生植物帯（いわゆる藻場）や岸際のヨシ帯の減少が関係しているものと思われるため、海岸付近の埋め立て（14）、河口域の護岸整備（13）による抽水植物帯の消失が挙げられる。

### 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。アマモ場や河口域のヨシ帯を確保することが重要と思われ、とくに仔稚魚の成育場として河口域にヨシ帯（奥行き 2 m 以上）を確保することが重要である。

### 7. 特記事項

カテゴリーの正しい策定のために、今後の詳しい調査が必要である。浜名湖などにおける藻場や湖岸際のヨシ帯の変化についても調査を行う必要がある。

### 8. 主な文献

後藤裕泰（1986）浜名湖の魚類。はまな，300：3-11

金川直幸（1988）静岡県の河口域魚類—神奈川県との比較—。神奈川自然誌資料，9：1-13

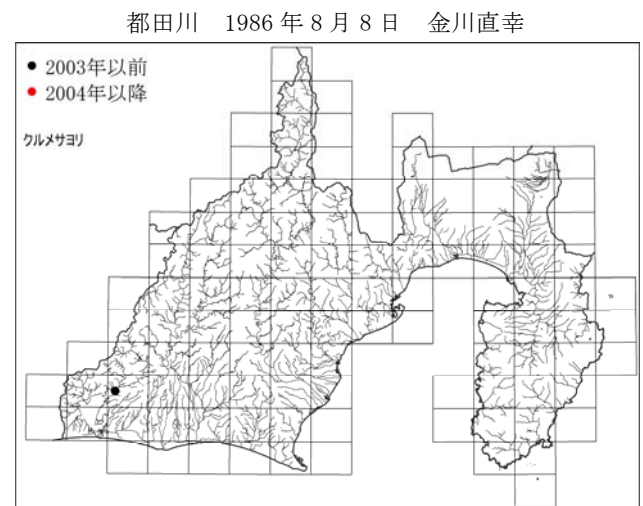
田中亮三（1984）佐鳴湖の自然—II 篇水生生物群—浜松短期大学研究論集，30：212-168

碓井星二・加納光樹・荒山和則・中里亮治（2010）北浦の沿岸帯におけるクルマサヨリ仔稚魚の生息場所利用パターン。日本生物地理学会会報，65：29-38

### 9. 標本

横須賀市自然博物館魚類資料（YCM-P 17004）

（板井隆彦・金川直幸）



# カワムツ *Candidia temminckii* (Temminck & Schlegel, 1846)

コイ科 Cyprinidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種)/ 西部 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 20 cm のコイ科魚類。背部は褐色で腹部は白色、体側中央部に暗藍色の太い縦条がある。胸鰭と腹鰭の前縁は黄色で赤くならない、側線鱗数は 43~51 枚、臀鰭の分枝軟条数は 9 本などの特徴によって同属のヌマムツと区別できる。底生動物から付着藻類まで摂食するが、アマゴなど優勢な魚が不在のところでは、大型魚が淵に定位して流下する水生昆虫や落下した陸上昆虫などを捕食する。繁殖期は 5~8 月で、オスは婚姻色を呈して頭部下面と腹部下面が赤くなり、頭部に顕著な追星が現れる。主に淵や平瀬の岸辺で産卵する。仔稚魚は淵の川岸に群れる。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島南部、国内の自然分布域は、中部地方以西の本州、四国、九州である。県内では西部、中部、東部、伊豆の広域に分布するが、自然分布域は西部の新野川以西に限られ、御前崎以东のものは人為分布とみなされている。

## 3. 生息環境

河川上流域下部から中流域下部までの淵や平瀬、下流域や水田排水路などの緩流域や池沼沿岸に生息する。川岸にツルヨシやヤナギ類が繁茂する場所で多くみられる。生息場所はアマゴ、アユなどの共存魚種によっても変わるほか、タカハヤやアブラハヤなどの生息場所にも影響を与える。

## 5. 減少の主要因と脅威

河川整備 (13) による流れの直線化や明瞭な淵の消失、川岸のコンクリート化、水際の植物帯の消失に伴う生息環境の悪化が大きい。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

本種の属名はかつて *Zacco* とされていたが、現在は *Candidia* に変更され、同属とされたオイカワは *Opsariichthys* に移された。これらの魚種の稚魚やごく若い未成魚は、魚類調査の現地での査定が難しく、これまでは一括して *Zacco* spp. として個体数を計上されることが多かったが、現在はそのような扱いができなくなっていることに留意する必要がある。

## 8. 主な文献

Chen, I. S., J. H. Wu & C. H. Hsu (2008) The taxonomy and phylogeny of *Candidia* (Teleostei: Cyprinidae) from Taiwan, with description of new species and comments on a new genus. *The Raffles Bulletin of Zoology supplement*, 19: 241-247

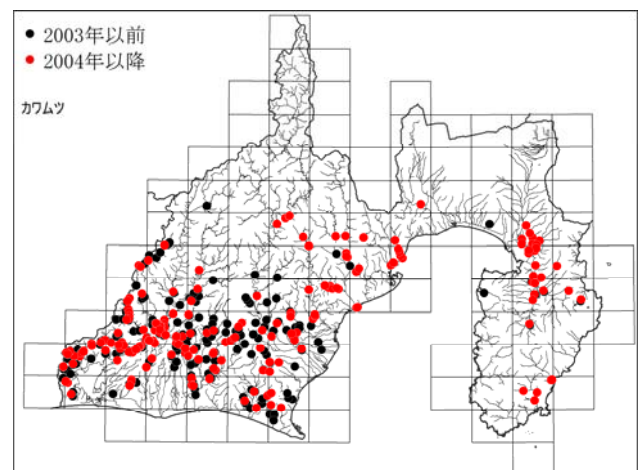
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、比和町立自然科学博物館魚類資料 (HMNH-P 602, 622)

(板井隆彦)



太田川水系 2016年10月8日 北原佳郎



# タカハヤ *Phoxinus oxycephalus juyi* (Jordan & Snyder, 1901)

コイ科 Cyprinidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/ 中部・伊豆 要注目種 (N-II 分布上注目種等)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 15 cm のコイ科魚類。体色は黄褐～やや緑がかった褐色。体側中央の暗色縦条は、とくに繁殖期にオスは明瞭になることが多いが、アブラハヤに比べて不明瞭である。体側に広く暗色の小斑点が不規則に分布する。オスはメスより小さく、繁殖期には生殖突起が突出する。底生動物や落下昆虫から付着藻類や植物種子までさまざまなものを摂食する。繁殖期は晩春から初夏で、淵尻などの砂礫底で産卵する。

## 2. 分布

*Phoxinus oxycephalus* は、日本のほか朝鮮半島の南海岸及び西海岸から中国東北部に分布する。本亜種は日本固有亜種で、中部地方以西の本州、四国及び九州に分布する。自然分布の東限は太平洋側では静岡県、日本海側では富山県である。県内では西部の天竜川水系から中部の興津川水系、伊豆の一部の河川に分布する。西部の馬込川や都田川水系には同属のアブラハヤは生息するが、本亜種はみられない。東部・伊豆の狩野川で見られるものは、人為分布とされている。

## 3. 生息環境

大河川の上流域をのぞき河川の上流域のほか山際の水の清い小流などにも広く生息する。カワムツやアブラハヤの生息域より上流に生息するが、それらが不在の川では中流域でもみられる。主に淵に住む。

## 4. 生息状況

人家の並ぶ溪流沿いの小流では、兩岸のほか川底までコンクリートで固められて、本種を含めほとんどの水生動物の生息ができなくなっているところが多い。また、カワムツが不在であった中部の多くの河川にカワムツが導入され、本亜種の生息域が上流側に狭められている。

## 5. 減少の主要因と脅威

主な要因は、河川改修によるコンクリート化に伴う生息環境の消失や減少 (13) であると考えられる。また、カワムツとの競合 (56-1) による生息場所の狭小化も懸念される。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

遺伝的な調査によって、関東の個体群は愛知以西産の遺伝子を有し、伊豆の個体群も関東と同一の遺伝集団であることから、人為分布の可能性が示唆されている。

## 8. 主な文献

板井隆彦 (1997) タカハヤ. 水産庁 編, 水産庁委託“希少水生生物保存対策試験事業”日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV), pp. 224-229. 日本水産資源保護協会, 東京.  
西田一也・小出水規行・皆川明子・渡部恵司・森 淳・竹村武士 (2015) 関東地方の国内外来魚タカハヤはどこから移殖されたのか?. 平成27年度農業農村工学会大会講演会 2015 : 278-279

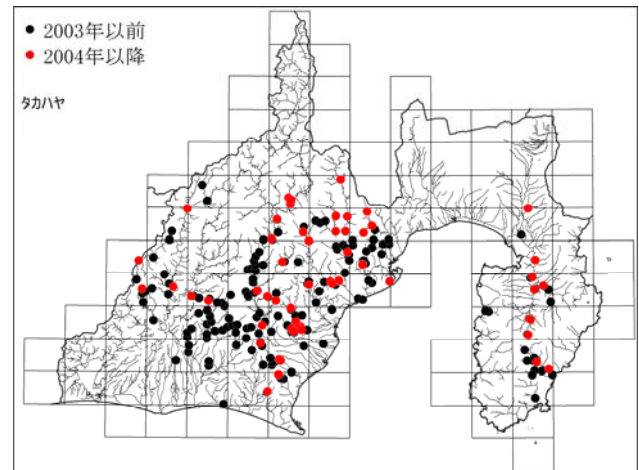
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)

(板井隆彦)



菊川 2016年6月1日 北原佳郎



# タモロコ *Gnathopogon elongates elongates* (Temminck & Schlegel, 1846)

コイ科 Cyprinidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/ 中部 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 10 cm のコイ科魚類。本種の体型は地理的変異が大きく、静岡県内のもは一般にずんぐりし、紡錘形というよりは円筒形に近い。口ひげが 1 対ある。体色は背面が暗緑褐色、腹面が銀白色である。体側中央に暗色の縦帯が走り、尾柄末端でいったん途切れ、尾鰭基底中央に暗色斑点として現れる。動物質に偏った雑食で、繁殖は春に行われる。卵は水中にある植物の茎、根や葉に産み付ける。



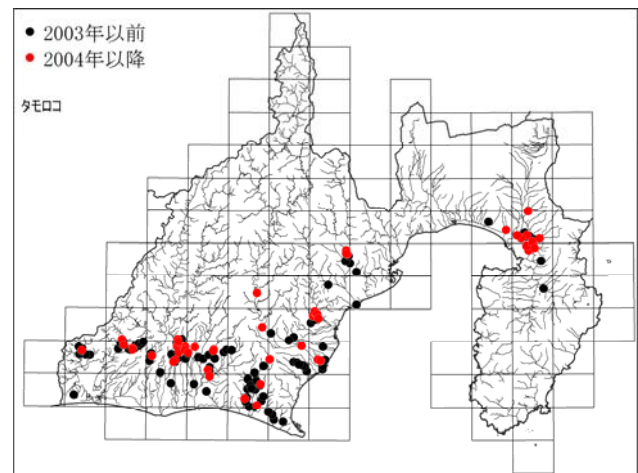
## 2. 分布

日本固有種で、太平洋側では静岡県以西、日本海側では新潟県以西の本州及び四国が自然分布域とされるが、関東以北の本州や九州にも移殖され広がっている。板井(1982)は、県内における自然分布の東限を中部の瀬戸川あたりと考えたが、静岡県レッドデータブック(2004)では分布東限はその東方の安倍川あるいは沼津市あたりまで広がる可能性を示した。中部地域以東では分布がかなり不連続になっており、自然分布の範囲については今後の検討が必要である。

太田川水系中沢川 2013年7月14日 森口宏明

## 3. 生息環境

河川中流域から下流域や池沼まで広く生息し、川や農業水路などの緩流で多くみられる。



## 4. 生息状況

生息地の小流や農業水路などの多くがコンクリートなどの固い基質のもので整備され、水際の植生が失われるなど生息環境が悪化し、本種の生息域が失われたり生息密度が減少しているところが少なくない。詳しい調査を行っていないため減少の程度は明らかでないが、生息密度が高いところは少なく、絶滅危惧種として扱う必要がでてくるかもしれない。

## 5. 減少の主要因と脅威

本種には自然分布域での生息地の減少や生息密度の減少の問題があるが、それはほとんど生息水域の人為的改変(12、13、15-2)によるものと考えられる。その一方で、本種は東部の狩野川水系などの河川にも移入し生息地を広げており、これについても問題としてとらえる必要がある。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

遺伝的な解析がより進めば、自然分布域の境界がより明確になってくるものと思われる。岐阜県では、中部地方に自然分布する在来系統の個体群と、県外から持ち込まれたと考えられる近畿地方以西に分布する系統の分布拡大及びホンモロコとの交雑が進行していることが示唆されている。

## 8. 主な文献

- 板井隆彦・金川直幸・小林正明(2004) タモロコ. 静岡県自然環境調査委員会 編, まもりたい静岡県の野生生物—県版レッドデータブック—<動物編>, p. 150. 羽衣出版, 静岡.
- 向井貴彦(2017) 岐阜県の魚類. 岐阜新聞社, 岐阜, 214 pp.
- 中村守純(1969) 日本のコイ科魚類. 資源科学研究所, 東京, 455 pp.

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)

(板井隆彦・金川直幸)

## ニシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type B (*sensu* Nakajima *et al.*, 2012)

(=2004年版のシマドジョウ (一部))

ドジョウ科 Cobitidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/ 西部・中部 要注目種(N-II 分布上注目種等) 変更コード8

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

体長約8~10cmのドジョウ科魚類。口ひげは3対。体側中央には円~楕円形の褐色斑紋が約10個並ぶ。尾鰭基底には黒色斑が2つあり、上側は大きく明瞭な半円形で、下側は不明瞭。尾鰭には斑紋状の横帯が3~4列みられる。オスの胸鰭の骨質盤はくちばし状になる。繁殖期は4~6月。野外での寿命は2年以上と考えられるが、生活史の詳細は不明。

### 2. 分布

日本固有種で、中部地方以西の本州と隠岐に自然分布する。静岡県は太平洋側の分布東限にあたる。県内では西部の都田川水系から中部の興津川水系まで広く分布する。西部の天竜川では支川相川とそれに続く本川のごく一部以外は確認されておらず、不連続な分布がみられ生物地理学的に興味深い。

### 3. 生息環境

河川中流部から下流域上部の砂や砂礫底の場所に生息する。

### 4. 生息状況

県内では興津川以西の多くの河川で確認されており、各水系での生息密度は高いが、天竜川水系ではあまり高くない。

### 5. 減少の主要因と脅威

生息環境である河川の砂・砂礫底の場所及び繁殖環境である流速が遅くて堆積物が存在する浅場、そして河川と水路との連続性の確保が必要なため、河川改修・護岸整備(13)や砂防ダムや堰堤の建設(25)による生息環境の悪化や消失及び河川の分断化が個体数減少の原因となると考えられる。

### 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

### 7. 特記事項

これまで、シマドジョウ *Cobitis biwae* 1種として扱われていたが、核型、遺伝的・形態的な特徴によって4集団(オオシマドジョウ、ニシシマドジョウ、ヒガシシマドジョウ、トサシマドジョウ)に大別された。西部の都田川水系では、体側中央の斑紋がない本種の変異個体が確認されている。

### 8. 主な文献

北原佳郎・森口宏明・北川 学 (2016) 静岡県都田川水系で採集された特異な斑紋パターンを持つニシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type B. 東海自然誌, (9): 37-41

中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・斉藤憲治 (2012) 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59(1): 86-95

Kitagawa, T., M. Watanabe, E. Kitagawa, M. Yoshioka, M. Kashiwagi & T. Okazaki (2003) Phylogeography and the maternal origin of the tetraploid form of the Japanese spined loach, *Cobitis biwae*, revealed by mitochondrial DNA analysis. *Ichthyological Research*, 50: 318-325

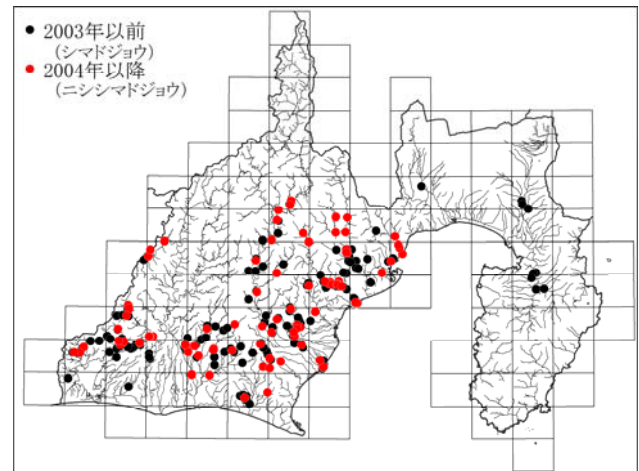
### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3193~3195, 3215)

(北原佳郎・板井隆彦)



安倍川水系 2017年7月10日 北原佳郎



# ヒガシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type C (*sensu* Nakajima *et al.*, 2012)

(=2004年版のシマドジョウ (一部))

ドジョウ科 Cobitidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/中部・東部・伊豆 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更コード8

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等):環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

体長約 5~10 cm のドジョウ科魚類。口ひげは 3 対、体側中央には円形から楕円形の褐色斑紋が約 10 個並び、尾鰭基底には眼径より小さい黒色斑が 2 つある。尾鰭には細かい斑紋状の横帯が 3~6 列みられる。オスの胸鰭の骨質盤は幅が狭い棒状になる。繁殖期は 4 月中旬から 6 月で、河川敷の浅い湿地、水田などの一時的な水域、用水路などの分流部などの植物残渣などの堆積物や適度な植生がある場所を利用する。卵は、水深が浅く流速が遅い底質が泥や砂の場所でみられる。体長約 50 cm 以上で成熟して繁殖に加わると考えられる。

## 2. 分布

日本固有種で、中部地方以東の本州と佐渡島に自然分布する。静岡県は太平洋側の分布西限にあたる。県内では中部・東部の富士川水系、東部の酒匂川水系鮎沢川、東部・伊豆の狩野川水系狩野川の本支川の一部に分布する。中部・東部の富士川では支川稲瀬川、芝川、潤井川、沼川支川の滝川などのごく一部以外は確認されておらず、不連続な分布がみられ、生物地理学的に興味深い。

## 3. 生息環境

河川中流部から下流域上部にかけての砂底や砂礫底の場所に生息する。

## 4. 生息状況

県内では富士川以東の河川で確認されている。各水系での生息密度はあまり高くない。

## 5. 減少の主要因と脅威

生息環境である河川の砂・砂礫底の場所及び繁殖環境である流速が遅くて堆積物が存在する浅場、そして河川と水路との連続性の確保が必要なため、河川改修・護岸整備 (13) や砂防ダムや堰堤の建設 (25) による生息環境の悪化や消失及び河川の分断化が個体数減少の原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

山梨県富士川水系の個体群は、斑紋の特徴は本種に類似するものの、ミトコンドリア DNA の特徴はニシシマドジョウ群に含まれることが報告されている。

## 8. 主な文献

中島 淳・内山りゅう (2017) 日本のドジョウ。山と溪谷社, 東京, 223 pp.

西田一也・藤井千晴・皆川明子・千賀裕太郎 (2006) 一時的な水域で繁殖する魚類の移動・分散範囲に関する研究。農業土木学会論文集, 244: 151-163

吉田 豊 (2013) ヒガシシマドジョウの産卵期における水路への遡上と産卵場所の特徴 (平成 23 年度)。栃木県水産試験場研究報告, 56: 4-11

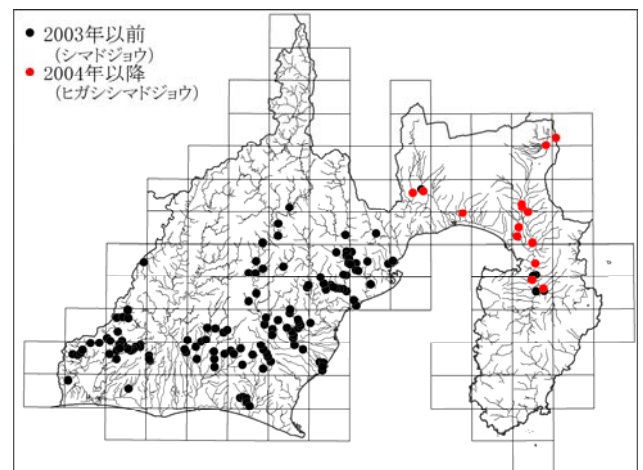
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)

(北原佳郎・板井隆彦)



狩野川水系 2017年7月4日 北原佳郎



# カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* (Mizuno, 1960)

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/ 中部 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 6 cm のハゼ科魚類。頬部に小さい赤色斑が散在する。他のヨシノボリ属の種より胸鰭条数が少なく(15~17 vs 19~22)、脊椎骨が多い(28 vs 26)。繁殖期は5~8月上旬で、平瀬のはまり石の下面に他の両側回遊型ヨシノボリ属よりも大型の卵を産卵する。孵化直後から底生生活を開始して一生を河川で過ごす。孵化後満2年で成熟して繁殖に加わると考えられる。

## 2. 分布

日本固有種で、富山県神通川付近及び静岡県富士川以西の本州、四国、九州北部、対馬、五島列島に自然分布する。県内では中部の富士川から西部にかけて広く自然分布するが、中部の蒲原・庵原地方では興津川以外のごく小さな河川のほか、天竜川・大井川・安倍川などの大河川の標高の高い区間の上流部の本支川にも分布しないなど、分布の空白域も存在する。近年、自然分布域である富士川よりも東の東部・伊豆の狩野川水系で、導入個体群の定着が確認されている。

## 3. 生息環境

主に河川上中流域に生息するが、西部の浜名湖流入河川では下流域上部(Bb-Bc域)にも生息する。淵の周辺から平瀬にかけての緩流部で多くみられる。

## 4. 生息状況

県内では富士川以西の多くの河川で確認されており、生息密度の高い河川も多い。

## 5. 減少の主要因と脅威

生活史を通して、河床材料の堆積・浸食が卓越する環境が必要であり、湛水域が形成されるとその区間では確認されなくなるため、河川改修・護岸整備(13)や砂防ダムや堰堤の建設(25)による生息環境の悪化や消失が個体数減少の原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

地域によって遺伝子・形態が異なる集団が存在することが報告されている。

## 8. 主な文献

北原佳郎・加藤健一・石川 均・品川修二・室伏幸一 (2013) 三島市で採集されたカワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* (Mizuno, 1960). 東海自然誌, (6): 27-33

Shimizu, T., N. Taniguchi & N. Mizuno (1993) An electrophoretic study of genetic differentiation of a Japanese freshwater goby, *Rhinogobius flumineus*. *Japan Journal of Ichthyology*, 39(4): 329-343

吉郷英範 (2011) 分布域東限に生息するカワヨシノボリ(硬骨魚類綱:スズキ目ハゼ科)の形態. 比和科学博物館研究報告, 52: 339-358

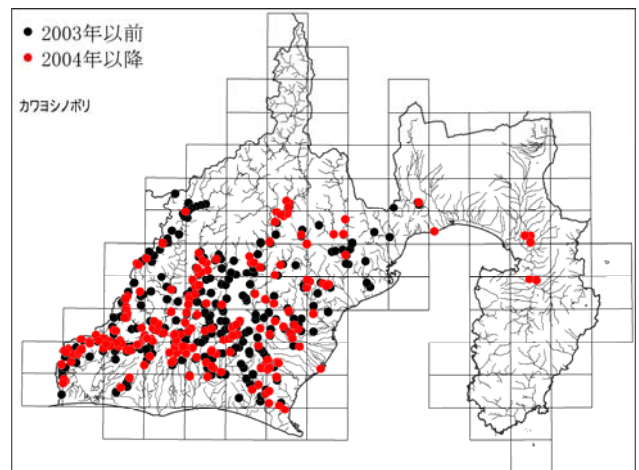
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、庄原市立比和自然科学博物館魚類資料 (HMNH-P 612-620、5958-5961、5968-5978、12074-12088、6933-6948)

(北原佳郎・板井隆彦・渋川浩一)



上: 富士川水系 2016年8月24日 北原佳郎  
下: 大井川水系 2015年8月26日 北原佳郎



# ビリンゴ *Gymnogobius breunigii* (Steindachner, 1880)

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)/ 西部・伊豆 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約7cmのハゼ科魚類。尾柄が細い。両眼間を通る眼上管(開孔は3対)がある。成熟前の個体の第1背鰭は黒く縁どられる。メスの婚姻色は顕著で、背鰭・腹鰭・臀鰭が黒くなる。繁殖期は福岡県では1月下旬から4月下旬。繁殖場所は河口汽水域の砂泥底干潟で、アナジャコなどの生息孔のほか、ゴカイ類の巣穴を拡張して利用する。砂泥底表面から5~10cmの深さの壁面に産卵する。稚魚は初春から初夏にかけて浅海域に出現し、河口や内湾の汽水域に移動する。泥底や砂泥底の中層を群がりて浮遊する。寿命は2~3年で、生後約1年(全長3.7~5.6cm)で成熟する。

## 2. 分布

国外ではサハリン南部、沿海州、朝鮮半島南岸、渤海、黄海、国内では北海道の太平洋・日本海側から種子島、壱岐、対馬、五島列島に分布する。県内では西部の浜名湖、佐鳴湖、浜名湖に流入する河川(都田川水系)、伊豆の仁科川、那賀川、岩科川、青野川に限られ、生物地理学的に興味深い。

## 3. 生息環境

河口汽水域や汽水湖でみられ、岸際の流れが緩い泥底や砂泥底の場所を好む。

## 4. 生息状況

西部と伊豆に限定的に分布するが、西部の浜名湖流入河川、伊豆の那賀川、岩科川では比較的生息密度が高く、生息状況は安定していると考えられる。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域における護岸整備・掘削(13)や浚渫・干潟域の埋め立て(14)、河口域の水門建設(25)による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

かつて本種には学名 *Chaenogobius castanea* があてられていたが、Stevensonによる分類学的検討によって本種に対し *Gymnogobius breunigii* が適用された。

## 8. 主な文献

道津喜衛(1954) ビリンゴの生活史. 魚類学雑誌, 3: 133-138

乾 隆帝・品田裕輔・川岸基能・大畑剛史・井原高志・鬼倉徳雄(2011) 津屋崎入江におけるビリンゴ *Gymnogobius breunigii* (Steindachner, 1880) とチクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai* (Takagi, 1957) の産卵状況. 日本生物地理学会会報, 66: 165-171

Stevenson, D. E. (2002) Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genera *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes: Perciformes: Gobiidae), with the description of a new species. *Species Diversity*, 7(6): 251-312

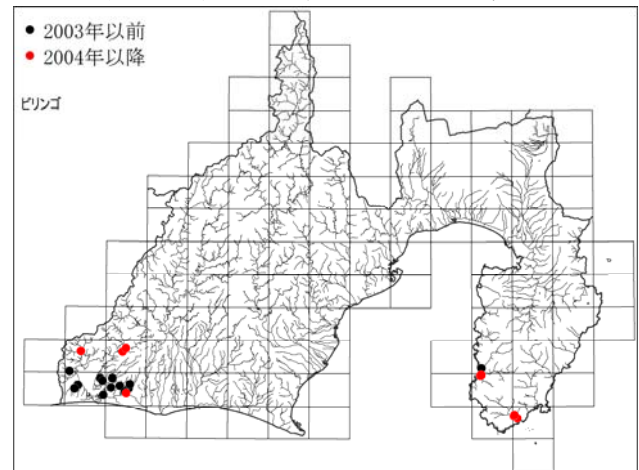
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P17030~17034)



©2019 Y.Kitahara

青野川水系 2015年9月30日 北原佳郎



(渋川浩一・板井隆彦・金川直幸・北原佳郎)



# イセゴイ *Megalops cyprinoides* (Broussonet, 1782)

(=ハイレン)

イセゴイ科 Megalopidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・東部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 100 cm のイセゴイ科魚類。「レプトセファルス」と呼ばれる葉形仔魚の発育段階を経る。本種の葉形仔魚の尾鰭は大きく二叉し、臀鰭は背鰭よりも大きく、その始部は背鰭のほぼ中央下にあるため、ウナギ類の葉形仔魚と容易に区別できる。孵化後約 1 カ月の葉形仔魚期を経て変態し、葉形仔魚から稚魚に変態する際、体長が収縮する。体長約 3 cm で成魚と同様の体形となり鱗が形成される。成魚の背鰭の最後の軟条は伸長する。産卵場所や成熟体長については不明。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島南岸、台湾、インドー西太平洋、日本では黒潮の影響を受ける地域を中心に、太平洋側では青森県、日本海側では秋田県まで分布するが、九州以北は稀であり、とくに日本海側では確認例が少ない。県内では西部の浜名湖、佐鳴湖、天竜川、太田川、菊川、箴川、中部の大井川、瀬戸川、安倍川、巴川、波多打川、三保半島、東部の新中川、伊豆の伊東大川水系唐人川で確認されている。

## 3. 生息環境

成魚は内湾などの沿岸の浅場、仔稚魚は河口汽水域から感潮域上流の純淡水域に生息し、河川では緩流部で見られる。

## 4. 生息状況

県内の西部から東部にかけて確認されているが、確認頻度が低いほか、生息が確認されたいずれの河川でも生息密度は低い。また、河川で確認されているのは葉形仔魚か稚魚である。大正時代には、かつて天然記念物指定されていた伊東市の浄ノ池から流出する唐人川からも記録されているが、温泉の枯渇や水質悪化などによってみられなくなった。駿河湾内では仔魚調査で葉形仔魚が採集されている。

## 5. 減少の主要因と脅威

幼魚が河口汽水域から感潮域上流の純淡水域の緩流部に生息していることから、河口域における浚渫(14)や護岸や河床の整備(13)による生息環境の悪化や消失が原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

浜名湖地方では、メナダあるいはセスジボラをイセゴイと呼ぶ。

## 8. 主な文献

望 典隆・塩澤成子・長坂美紀・久保田 正 (2001) 駿河湾に出現するカライワシ目、ソトイワシ目及びウナギ目の葉形仔魚. 東海大学海洋学部紀要, 52: 43-55

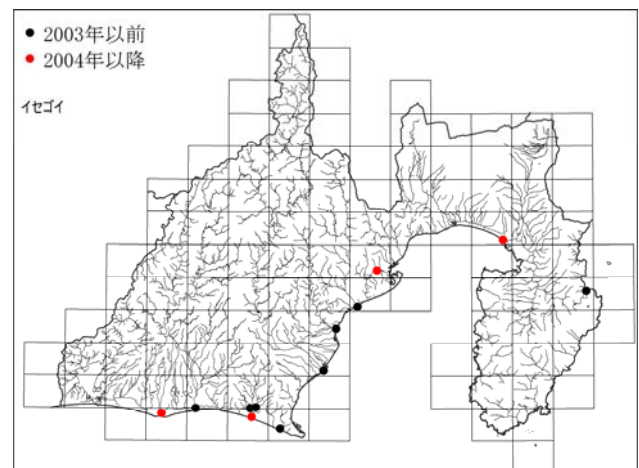
塚本洋一・沖山宗雄 (1993) イセゴイの初期生活史における成長様式. 魚類学雑誌, 39(4): 379-386  
魚類写真資料データベース. <http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage/index.html>. KPM-NR0043477  
(秋田県: 20070828)

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-h-700020)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P17001~17002)



上: 葉形仔魚 天竜川 2013年10月24日 北原佳郎  
下: 稚魚 新中川 2010年9月7日 加藤健一



(板井隆彦・渋川浩一・北原佳郎)

# オオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy & Gaimard, 1824

ウナギ科 Anguillidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 200 cm の大型のウナギ科魚類。体側に不規則な斑紋がある。背鰭基部は胸鰭後端と肛門の中間点より前方にある。シラス期には尾鰭基底に縦帯状の黒色斑がある。産卵場は西マリアナ海嶺南部海域と考えられる。繁殖期は不明である。本州でのシラスウナギの溯上時期は、秋から初冬と考えられる。

## 2. 分布

国外ではインド-西太平洋、国内では茨城県、千葉県、東京都、静岡県、三重県、和歌山県、四国、九州、沖縄県に分布する。県内では西部の浜名湖、菊川、中部の大井川、小坂川、富士川、伊豆の石部の小流、大浜川、河津川、伊東大川水系、烏川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川の中・下流域に生息する。堆積した落葉や水草などの中、平瀬からトロの転石の下や岸際の植生、岩盤の割れ目や巨石の間などでみられる。

## 4. 生息状況

県内各地で「ゴマウナギ」の地方名があるほか、標本も西部から伊豆にかけて得られているが、確認頻度が低く、いずれの河川でも生息密度は低い。確認された大部分は河口付近のシラス期のものだが、近年、全長 1 m 以上の大型個体も確認されている。

## 5. 減少の主要因と脅威

河川中流域の岸際植生、巨岩や礫などが多く存在する場所に生息していることから、河川中・下流域における浚渫(14)や護岸や河床の整備(13)による生息環境の悪化や消失が原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

和歌山県富田川、徳島県母川、長崎県樺島、鹿児島県指宿市、千葉県館山市では、生息地が国や市の天然記念物に指定されている。

## 7. 特記事項

かつて天然記念物に指定されていた伊東市の浄ノ池では、本種やユゴイなどの南方系魚類がみられたが、温泉の枯渇などによって天然記念物から解除され、現在では池自体が埋め立てられており存在しない。

## 8. 主な文献

青島秀治(2015) 浜名湖の主?~大きなオオウナギ~. はまな, 550: 8

Kuroki, M., J. Aoyama, M. J. Miller, T. Yoshinaga, A. Shinoda, S. Hagiwara & K. Tsukamoto (2009) Sympatric spawning of *Anguilla marmorata* and *Anguilla japonica* in the western North Pacific Ocean. *Journal of Fish Biology*, 74: 1853-1865

西 源二郎・今井貞彦(1969) 屋久島産オオウナギ幼期の生態ならびに形態的研究. 鹿児島大学水産学部紀要, 18: 65-76

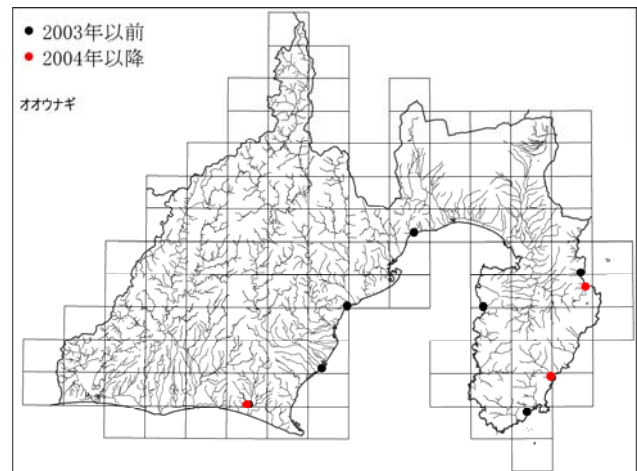
多部田 修(1994) オオウナギ. 水産庁 編, 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅰ), pp. 335-341. 日本水産資源保護協会, 東京.

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40777)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI 12230) (板井隆彦・鈴木邦弘・北原佳郎)



上: 飼育個体 石部の小流 2004年6月6日 安藤晴康  
下: シラス期 菊川水系 2017年11月3日 北原佳郎



# ガンテンイシヨウジ *Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus* (Cantor, 1849)

ヨウジウオ科 Syngnathidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 18 cm のヨウジウオ科魚類。体色は、背中側では緑色を帯びた茶褐色、腹側では黄色を呈し、体側には黒く縁どられた白色の斑紋が散在する。オスは尾部腹面に発達した育児嚢をもち、メスが育児嚢に産卵する。オスは、卵が孵化するまで保護する。繁殖期は、本州では夏季と考えられ、県内では6月にオスの抱卵個体が確認されている。孵化後の仔魚は、沿岸や藻場及び河川汽水域でみられることから、河川汽水域と海を回遊する回遊魚と考えられる。体長約 12 cm で成熟して繁殖に加わる。

## 2. 分布

国外では上海、インドー西太平洋の温・熱帯域、国内では千葉県から種子島までの太平洋沿岸と石川県、九州北・西岸、瀬戸内海に分布する。県内では西部の浜名湖、都田川水系都田川と花川、天竜川、太田川、弁財天川、菊川、中部の庵原川、伊豆の青野川、稲生沢川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川汽水域から湾奥部に生息し、河川汽水域では、ヨシ帯付近や枯れ草・枯れ枝が滞留する淵や平瀬などの緩流部、泥底や砂礫底のカキ礁でみられる。

## 4. 生息状況

県内では河口域の発達した河川の汽水域だけで確認されている。生息が確認されたいずれの河川でも生息密度は低い。未成魚のほか、西部の菊川や中部の庵原川で抱卵したオスが確認されていることから、県内河川でも再生産している可能性がある。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域の緩流部でヨシ・枯れ草や泥・砂礫底のカキ殻がみられるような場所に生息しているため、河口域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

近年、静岡県以東での確認事例が増加している東京湾では再生産していることが示唆されている。

## 8. 主な文献

- 北原佳郎 (2006) 静岡県庵原川河口で採集されたガンテンイシヨウジ. 兵庫陸水生物, 58: 103-105  
酒井 卓・瀬能 宏・加納光樹 (2018) 東京湾におけるガンテンイシヨウジ *Hippichthys penicillus* の採集記録と北限個体群の確立の可能性. 日本生物地理学会会報, 30: 5-10  
Watanabe, S., Y. Watanabe & M. Okiyama (1997) Monogamous mating and convention sex roles in *Hippichthys penicillus* (Syngnathidae) under laboratory conditions. *Ichthyological Research*, 44(3): 306-310

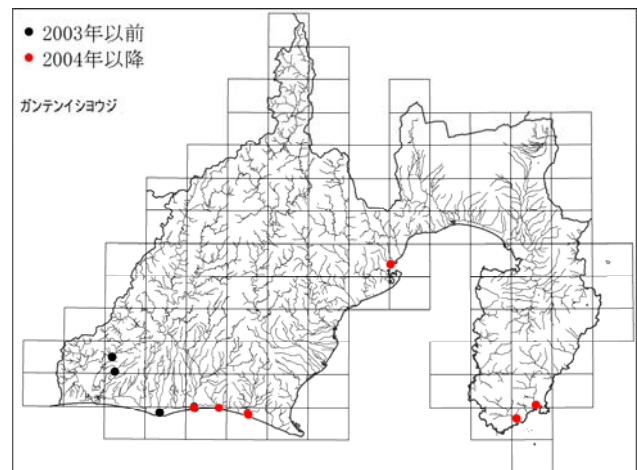
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40590, 43490)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P 17006~17007)、徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P 12992~12993)

(金川直幸・北原佳郎)



稲生沢川 2015年9月25日 北原佳郎



# カワヨウジ *Hippichthys (Hippichthys) spicifer* (Rüppell, 1838)

ヨウジウオ科 Syngnathidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 17 cm のヨウジウオ科魚類。体色は、茶褐色、腹側では黄色を呈し、軀幹部には約 13~15 条の白色横帯がある。頭部の模様は雌雄で差がみられ、メスでは頭部下面に黒色斑紋が散在するほか眼窩後方の斜帯が明瞭であるが、オスでは黒色斑紋はなく眼窩後方の斜帯も不明瞭である。オスは尾部腹面に発達した育児嚢をもち、メスが育児嚢に産卵する。オスは、卵が孵化するまで保護する。繁殖期は、沖縄島より北では夏季から秋季と考えられる。沖縄島では、冬期に繁殖活性が低下するものの、周年にわたって産卵していることが示唆されている。汽水域と海を回遊する回遊魚で、体長約 11 cm で成熟すると考えられる。



©2019 Y.Kitahara

上：太田川 2015年 6月 28日 北原佳郎  
下：青野川 2005年 11月 13日 北原佳郎

## 2. 分布

国外では台湾、海南島、インドー西太平洋、国内では千葉県小櫃川から種子島・屋久島までの太平洋沿岸と琉球列島に分布する。県内では西部の太田川、菊川、中部の勝間田川、坂口谷川、庵原川、伊豆的那賀川、青野川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川汽水域に生息し、ヨシが生育する緩流部や泥・砂礫底のカキ礁でみられる。

## 4. 生息状況

県内では河口域の発達した河川だけで確認されている。生息が確認されたいずれの河川でも生息密度は低い。未成魚も確認されているが、県内河川で再生産しているか否かは不明である。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域の緩流部でヨシや泥・砂礫底のカキ殻がみられるような場所に生息しているため、河口域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

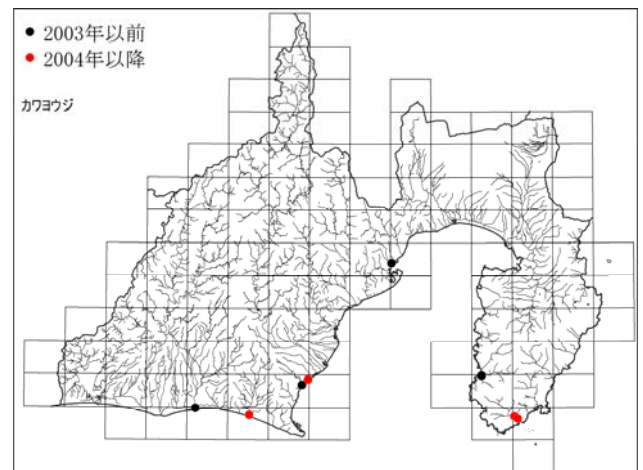
中部では、同属のアミメカワヨウジ *Hippichthys (Hippichthys) heptagonus* が確認されている。

## 8. 主な文献

- Ishihara, T. & K. Tachihara (2009) The maturity and breeding season of the bellybarred pipefish, *Hippichthys spicifer* in Okinawa-jima Island rivers. *Ichthyological Research*, 56(4): 388-393
- 北原佳郎 (2008) 静岡県伊豆地域青野川で採集されたカワヨウジ. 兵庫陸水生物, 60: 139-142
- 山川宇宙・瀬能 宏 (2016) 相模湾流入河川及び沿岸域で記録された注目すべき魚類 16 種. 神奈川自然誌資料, (37): 44-52

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI12233)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P17005)、徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P12991、16478)



(金川直幸・北原佳郎)

# テングヨウジ *Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus* (Bleeker, 1853)

ヨウジウオ科 Syngnathidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/西部・中部・東部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 25 cm のヨウジウオ科魚類。吻は長く、躯幹部は太い。体色は茶褐色を呈し、鰓蓋後方に暗赤色の縦条を持つ。吻から躯幹部にかけて淡色の斑紋が散在する。オスの育児嚢はあまり発達せず、両側の骨板で保護される程度である。繁殖期は、本州では9月で、メスがオスの育児嚢に産卵する。オスは、育児嚢に産み付けられた卵が孵化するまで保護する。卵は約1週間で孵化する。孵化後の仔魚は海に流下し、両側回遊魚と同様に川と海を回遊していると考えられる。体長約 13 cm で成熟して繁殖に加わると考えられる。

## 2. 分布

国外では台湾、スリランカからソサエティ諸島の東インドー太平洋、国内では相模湾から種子島までの太平洋沿岸と琉球列島に分布する。県内では西部の馬込川、天竜川、太田川、弁財天川、菊川、中部の栃山川、瀬戸川、小坂川、庵原川、富士川、東部の狩野川、伊豆の宇久須川、岩科川、五十鈴川、青野川、大賀茂川、稲生沢川、河津川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川汽水域から感潮域上部の純淡水域に生息する。ヨシが生育する場所や枯れ草・枯れ枝が滞留する淵や平瀬などの緩流部で、それらに擬態して植物の枝や葉の周辺の表層や中層に浮いている。

## 4. 生息状況

県内の広域に分布し、県内で確認されている河川産ヨウジウオ類では最もよくみられるが、生息が確認されたいずれの河川でも生息密度は低い。しかし、抱卵したオス以外にも未成魚も確認されていることから、県内河川でも再生産していると考えられる。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域の緩流部でヨシや枯れ草などがみられるような場所に生息しているため、本種の個体数減少は、河口域における護岸整備(13)や浚渫(14)による生息環境の悪化や消失が原因となると考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

隣県の神奈川県酒匂川でも抱卵したオスが確認されており、周辺地域において再生産している可能性が示唆されている。

## 8. 主な文献

中里 靖・藤田 矢郎 (1986) 伊豆, 相模, 房総におけるテングヨウジの分布と産卵, 卵発生及び仔魚前期. 水産増殖, 33(4): 230-239

山川 宇宙・瀬能 宏 (2016) 相模湾流入河川及び沿岸域で記録された注目すべき魚類 16 種. 神奈川自然誌資料, (37): 44-52

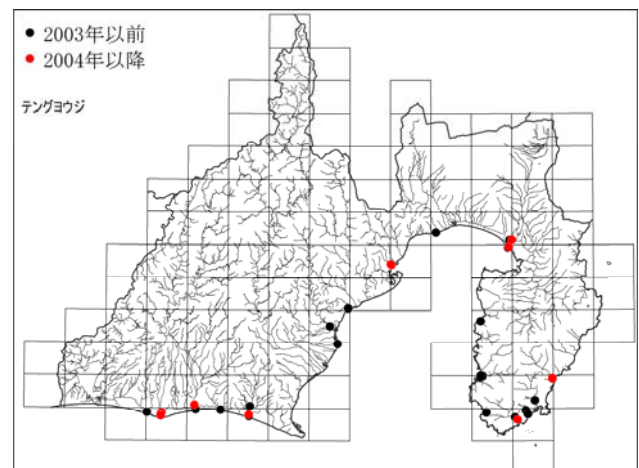
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3258, 3296, 40764, 43471)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI 28464)

(板井隆彦・北原佳郎)



太田川 2016年10月4日 北原佳郎



# イッセンヨウジ *Microphis (Coelonotus) leiaspis* (Bleeker, 1853)

ヨウジウオ科 Syngnathidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・東部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 20 cm のヨウジウオ科魚類。吻は突き出るが比較的短く、吻端から鰓蓋にかけて1本の明瞭な黒条がある、鰓蓋の隆起線は不明瞭で、下隆起線は不明瞭である。背鰭条数は多く 50 本以上。体側には明瞭な黒色斑点はない。県内での繁殖期は不明だが、沖縄島では6~12月で、メスがオスの育児嚢に産卵する。オスは育児嚢をもち、産み付けられた卵が孵化するまで保護する。淡水域で孵化後の仔魚は海に流下し、海で成長した後に河川へ加入する両側回遊魚である。

## 2. 分布

国外では台湾南部、香港、ジャワ島、西太平洋、国内では神奈川県相模川以西、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県の黒潮が洗う太平洋岸河川から琉球列島にかけて分布する。県内では西部の天竜川、中部の興津川、東部の狩野川、伊豆の古宇川、岩科川、青野川、稲生沢川、河津川で確認されている。

## 3. 生息環境

河口域から中流域の純淡水域に生息する。主に下流域でみられるが、天竜川では河口から約 14 km 上流の瀬でも確認されている。流水環境に適応しており、ツルヨシなどの岸際植生付近の緩流部のほか、平瀬や早瀬でも確認されている。

## 4. 生息状況

県内の西部から伊豆にかけて確認されているが、確認された河川が少ないほか、いずれの河川でも生息密度は低い。成長した個体もみられるが、県内に定着しているかは不明である。

## 5. 減少の主要因と脅威

仔魚が海域で成長後に河川へ加入すること、河口域から中流域の岸際植生付近や早瀬・平瀬などに生息することから、河口域における浚渫 (14) や護岸や河床の整備 (13) による生息環境の悪化や消失が原因となる。また、河川横断構造物 (25) (落差: 50~70 cm) によって溯上が阻害されている事例もみられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

伊豆では、同属のタニヨウジ *Microphis (Lophocampus) retzii* が確認されている。

## 8. 主な文献

Ishihara, T. & K. Tachihara (2008) Reproduction and early development a freshwater pipefish *Microphis leiaspis* in Okinawa-jima Island, Japan. *Ichthyological Research*, 55(4): 306-310  
環境アセスメントセンター (2009) 水生生物生息状況等調査業務委託 (河津川) 報告書. 環境アセスメントセンター, 静岡, 35 pp.

北川捷康 (2008) 天竜川下流部の魚類 その2—一気になる2種—. 遠州の自然, (31): 37-38

前田健・立原一憲 (2006) 沖縄島汀間川の魚類相. 沖縄生物学会誌, 44: 7-25

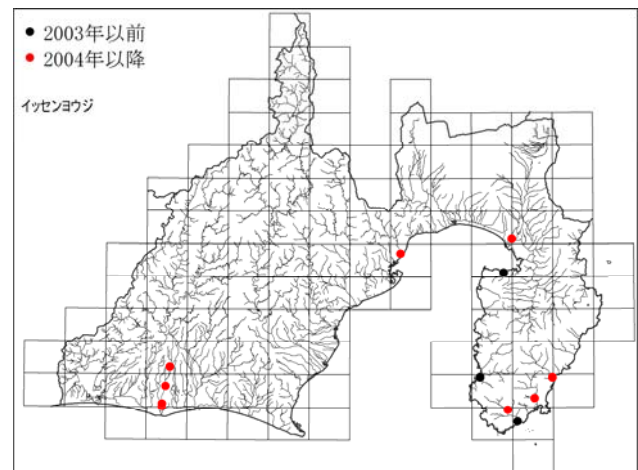
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)

(板井隆彦・北原佳郎)



天竜川 2017年9月8日 北原佳郎



### 1. 種の解説

全長約 120 cmのアカメ科魚類。体高が高く、側扁し、頭部は吻端が尖り下顎が出る。第1背鰭の棘は強く第3棘が最も長い。成魚の体色は銀白色であるが、幼魚ではオリーブ色の地色に緑みを帯びた黄色の斑模様がある。眼はルビー色に輝く。初夏に海域で産卵し、生まれた仔稚魚は河口域のアマモ場で約1年を過ごし、塩分の濃い河口や海域へ移動する。

### 2. 分布

日本固有種。静岡県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸から記録されており、主要生息地は高知県と宮崎県に限られる。県内では西部の浜名湖、中部の勝間田川で確認されており、勝間田川が分布の東限とされたきたが、その後、南伊豆町小稲、神奈川県相模川、東京湾で採集され、記録が更新された。

### 3. 生息環境

汽水域から沿岸域にかけて生息し、純淡水域へは進入しない。昼間は岩陰などに群れで身を潜め、夜間に摂餌回遊を行う。県内の捕獲事例の多くが定置網などによるため、生息環境の詳細は不明である。

### 4. 生息状況

県内ではきわめて稀である。1970年に浜名湖の定置網で漁獲されたのが初記録で、浜名湖ではその後散発的に記録が残るが、2010年に突如として大量に漁獲された。これらの大部分は全長15 cm前後の1歳魚だが、稚魚や未成魚も記録されている。しかし、これら個体の本県への来遊時期や来遊年齢、本県水域における越冬可否などは不明である。

### 5. 減少の主要因と脅威

県内では減少が示唆される状況にはないが、アマモ場の減少に伴う稚魚の生息場の消失(14)、護岸整備などによる未成魚の生息環境の破壊(13)が懸念される。また、アカメ資源全体については、主分布が局所的(61)、個体数の急減に伴う遺伝的多様性の低下(62)、飼育目的の幼稚魚に対する採集圧(41)が脅威となっている。

### 6. 保護対策

宮崎県では野生動植物の保護に関する条例によって、捕獲等の禁止、適切な取扱いや生息地保存の推奨が図られている。

### 7. 特記事項

アカメ科全体では、他種は熱帯・亜熱帯域に分布するのに対し、本種だけが温帯域に分布し、かつ純淡水域に進入しない。このことは、アカメ科魚類の生物地理や進化を検討する上で重要である。

### 8. 主な文献

内田喜隆(2005) 四万十の怪魚アカメの生活史. 海洋と生物, 27(1): 24-29

川嶋尚正(2013) 伊豆半島小稲地先で採捕された成魚のアカメ. 魚類学雑誌, 60(2): 192-193

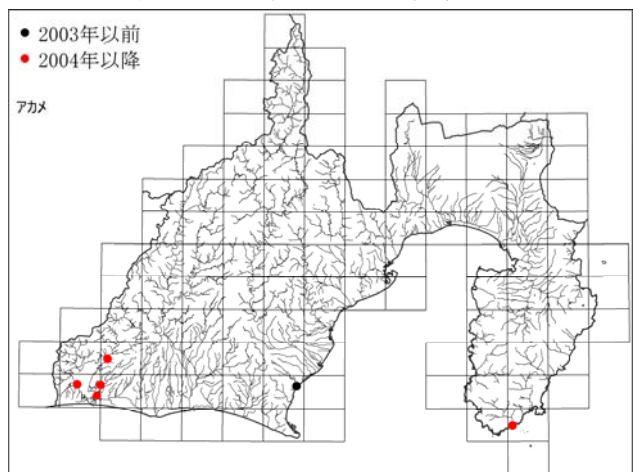
### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料(SPMN-PI 40699~40701)、東京海洋大学博物館(MTUF-35447)

(鈴木邦弘・板井隆彦)



浜名湖 2010年10月13日、鈴木邦弘



## ユゴイ *Kuhlia marginata* (Cuvier, 1829)

ユゴイ科 Kuhliidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

全長約 20 cm のユゴイ科魚類。体は側扁する。体色は銀白色で、体側背方に暗色小斑点が散在する。尾鰭、背鰭、臀鰭の後縁が黒く縁どられる。回遊性魚類で、産卵は海で行い、仔稚魚は海で育った後、河川中流域に溯上し成長すると考えられているが、詳しい生活史は不明である。

### 2. 分布

主に琉球諸島以南の亜熱帯・熱帯地域に分布し、日本では黒潮の影響を受ける太平洋岸の水域から記録されている。県内では西部の都田川、天竜川、太田川、弁財天川、菊川、中部の安倍川、波多打川、富士川、伊豆の西浦河内川、古宇川、井田大川、八木沢川、五十鈴川、青野川、大浜川、稲生沢川、河津川、鳥川、伊東宮川、大川川で確認されている。

### 3. 生息環境

河川河口域から中流域に生息し、主に淵から流れの緩い瀬にかけてみられる。

### 4. 生息状況

県内での確認の多くは全長 5 cm 未満の未成魚で、水温が低下する冬期にはみられなくなる。しかし、いくつかの河川では越冬個体が確認されている。

### 5. 減少の主要因と脅威

河口域に水門が設置された河川では、河口域の環境が大きく変わり、本種が確認されなくなった(25)。また水路化、護岸整備(13)や水質の悪化(31)による生息環境の悪化が減少原因となっているとみられる河川がある。

### 6. 保護対策

保護対策はとられていないが、伊豆地域にその保護が必要と考えられる河川がある。

### 7. 特記事項

かつて伊東市の唐人川の水源地であった浄ノ池は、温泉排水の流入によって水温が高く、本種のほかオオウナギ、オキフエダイなどの南方性の魚類が生息しており、これを貴重として池は国の特別天然記念物に指定された。しかし、土砂や下水の流入によって生息環境が悪化し、1982年に指定解除された。現在、池は埋められて存在しない。なお、河津川の支川では、本種の小型から大型個体のほか、多くの南方系の水生動物がみられる。しかし、近年、河川の改修に伴う淵の消失と水質悪化によって生息環境が悪化している。かつての伊東市の「浄ノ池」に類似した貴重な生息地であり、生息環境の保全対策が望まれる。

### 8. 主な文献

板井隆彦(1974) 琉球列島の河川に生息する魚類の食性 I—1973年夏—。琉球列島の自然と保護に関する基礎研究, I: 175-185

北川捷康(2011) ユゴイの新産地と採捕場所の特色。東海自然誌, (4): 39-41

黒田長禮(1925) 静岡県伊東浄ノ池の魚類。内務省天然記念物調査報告, 動物の部: 65-81

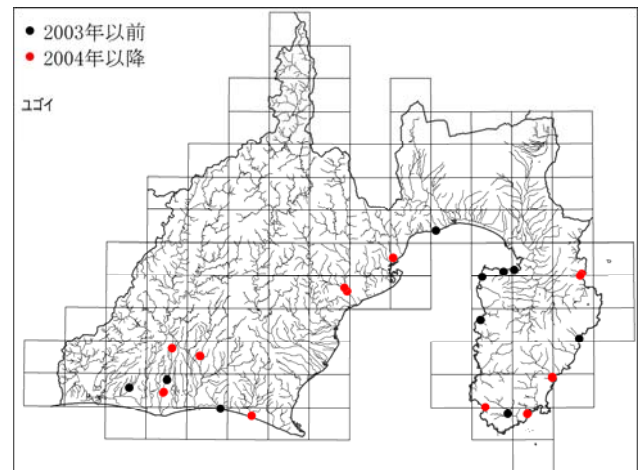
### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40564~40565, 40773)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI 13765~13769)

(板井隆彦・鈴木邦弘)



河津川水系 2010年4月22日 鈴木邦弘





# オオクチユゴイ *Kuhlia rupestris* (Lacepède, 1802)

ユゴイ科 Kuhliidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 45 cm のユゴイ科魚類。体は側扁し、体高が高い。体色は銀白色で、体側の各鱗に小斑点がある。各鱗の後縁は黒く縁どられない。尾鱗の上下に黒色の斑点があるが、成長とともに不明瞭になる。回遊性魚類で、産卵は海で行い、仔稚魚は海で育った後、河川中流域にまで溯上して成長すると考えられるが、詳しい生活史は不明である。水生・陸生の昆虫や底生動物、魚類などを捕食して生活する。

## 2. 分布

主に琉球列島以南の亜熱帯・熱帯地域に分布し、国内では黒潮の影響を受ける太平洋岸の水域から記録されている。県内では西部の菊川、中部の大井川、伊豆の八木沢川、大浜川、河津川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川の河口域から中流域に生息し、主に淵から流れの緩い瀬にかけてみられる。

## 4. 生息状況

県内では大小さまざまな河川で確認されているが、同属のユゴイに比べて確認河川数が少ない。多くの河川で確認されているのは全長 5 cm 未満のごく若い未成魚で、水温が低下する冬期にはみられなくなる。しかし、越冬したと考えられる全長 30 cm 以上の個体がえられた河川もある。ただし、この河川における繁殖の有無については未調査である。

## 5. 減少の主要因と脅威

県内では津波対策として河口域に水門が設置される河川が増えているが、そのような河川では、河口域の環境が大きく変わり、建設後確認されなくなったところがみられる(25)。また護岸や水路全体の整備(13)や水質の悪化(31)による生息環境の悪化が影響していると考えられる河川がある。

## 6. 保護対策

保護対策はとられていないが、伊豆地域にその保護が必要と考えられる河川がある。

## 7. 特記事項

河津川の支川では、本種の小型から中型個体のほか、多くの南方系の水生動物がみられる。しかし、近年、河川の改修に伴う淵の消失と水質悪化によって生息環境が悪化している。その支川はかつての伊東市の「浄ノ池」に類似した生息条件を有する貴重な生息地であり、生息環境の保全対策が望まれる。

## 8. 主な文献

板井隆彦(1974) 琉球列島の河川に生息する魚類の食性 I—1973年夏一. 琉球列島の自然と保護に関する基礎研究, I: 175-185

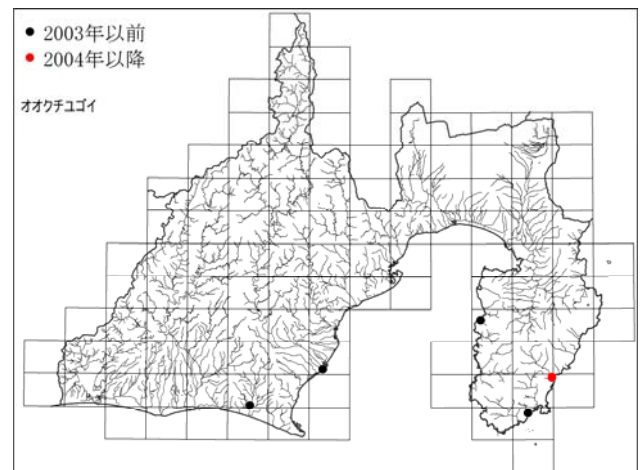
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40702, 40774)

(板井隆彦・鈴木邦弘・小林正明)



河津川水系 2013年4月22日 鈴木邦弘



# チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* Bleeker, 1853

カワアナゴ科 Eleotridae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・東部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 12 cm のカワアナゴ科魚類。頬にある横列の孔器列の 4 列目が、縦列の孔器列を横断する。体色は淡褐～黒褐色を呈するが、体色変化が著しい。明色時には眼の後方・後下方に 3 本の暗色帯、胸鰭と尾鰭の基部にそれぞれ暗色斑が 2 つみられる。沖縄島での繁殖期は 5～12 月で、汽水域から淡水域の石の下面に産卵する。体長 2.8 cm 以上で成熟すると考えられる。

## 2. 分布

国外ではインドー太平洋、国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県から与那国島に分布する。県内では西部の佐鳴湖、馬込川、天竜川、太田川、弁財天川、菊川、新野川、中部の勝間田川、瀬戸川、小坂川、大谷川放水路、東部の狩野川、塚田川、伊豆の八木沢川、那賀川、岩科川、五十鈴川、殿田川、青野川、大賀茂川、稲生沢川、河津川で確認されている。

## 3. 生息環境

河口汽水域から下流の淡水域に生息し、汽水域でよくみられる。泥・砂泥底でカキ礁がみられる場所、岩や倒木の下などの障害物がある場所でみられる。

## 4. 生息状況

県内では主に河口域の発達した河川で確認されている。伊豆の青野川では稚魚から成魚までが確認されており、再生産している可能性がある。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口から下流域における護岸整備(13)や浚渫(14)による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

沖縄島では繁殖期以外にも河川への仔稚魚の加入が確認されており、より南方からも仔稚魚が供給されていることが示唆されている。

## 8. 主な文献

前田 健・山崎 望・立原一憲 (2005) チチブモドキとテンジクカワアナゴの繁殖習性と初期発生. 2005 年度日本魚類学会年会講演要旨 : 84

Maeda, K., N. Yamasaki & K. Tachihara (2007) Size and age at recruitment and spawning season of sleeper, genus *Eleotris* (Teleostei:Eleotridae) on Okinawa Island, Southern Japan. *The Raffles bulletin of Zoology*, 14: 199-207

Onikura, N., J. Nakajima, T. Nishida, R. Inui, K. Eguchi, M. Nakatani & S. Oikawa (2009) Spawning sites of *Eleotris acanthopoma* (Perciformes:Eleotridae) in the Kitagawa and Sumiegawa Rivers, Kyushu Island, Japan. *Ichthyological Research*, 56(1): 105-107

## 9. 標本

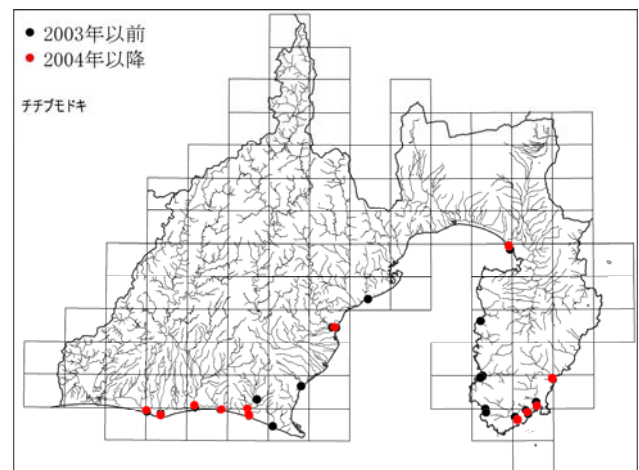
ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3277, 40599, 40766, 43431, 43459, 43472)、宮内庁生物学研究所魚類資料 (BLIP 20101375)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P 17012~17014)、和歌山県立自然博物館登録標本 (WMNH-2011-PIS. 294)

(金川直幸・北原佳郎)



©2019 Y.Kitahara

上：成魚 稲生沢川 2015年9月29日 北原佳郎  
下：未成魚 菊川水系 2017年12月3日 北原佳郎



## テンジクカワアナゴ *Eleotris fusca* (Schneider, 1801)

カワアナゴ科 Eleotridae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆：要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

全長約 20 cm のカワアナゴ科魚類。体色は暗褐色または褐色で、体側に不規則な模様がある。体色変化は著しい。明色時には、眼の後方・後下方に 3 本の暗色帯がみられる。鰓蓋から腹部にかけて赤みを帯びる。頬にある横列の孔器列は 8 本で、4 列目と 6 列目が縦列の孔器列を横断する。沖縄島では体長 5 cm 以上で成熟し、5~12 月に繁殖する。淡水域の石の下面に産卵する。県内での繁殖などの生態は不明である。

### 2. 分布

国外ではインドー太平洋、日本国内では小笠原諸島、千葉県、神奈川県、和歌山県、高知県、宮崎県から与那国島の黒潮の影響が及ぶ地域に分布する。県内では西部の菊川、中部の大幡川、瀬戸川、小坂川、安倍川水系丸子川、大谷川放水路、富士川、伊豆の八木沢川、那賀川、大賀茂川、河津川で確認されている。

### 3. 生息環境

下流域から中流域の純淡水域に生息する。川岸にツルヨシなどの植物群落のあるところや緩流部の泥底にある転石や倒木など障害物の下に潜む。

### 4. 生息状況

県内では 1998 年頃から確認されている。確認されたいずれの河川でも確認頻度、生息密度ともに低い。確認された個体の多くは未成魚だが、成熟サイズの個体もわずかに確認されている。

### 5. 減少の主要因と脅威

下流域から中流域にかけての護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失があげられる。

### 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

### 7. 特記事項

近年、神奈川県や千葉県など、静岡県以東でも確認事例が増加している。

### 8. 主な文献

Maeda, K. & K. Tachihara (2005) Recruitment of amphidromous sleepers, *Eleotris acanthopoma*, *Eleotris melanosoma*, and *Eleotris fusca* into the Teima River, Okinawa Island. *Ichthyological Research*, 52(4): 325-335

Maeda, K., N. Yamasaki & K. Tachihara (2007) Size and age at recruitment and spawning season of sleeper, genus *Eleotris* (Teleostei: Eleotridae) on Okinawa Island, Southern Japan. *The Raffles bulletin of Zoology*, 14: 199-207

山川宇宙・瀬能 宏 (2015) 相模湾とその周辺地域の河川及び沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種—近年における暖水性魚類の北上傾向について。神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (47): 35-57

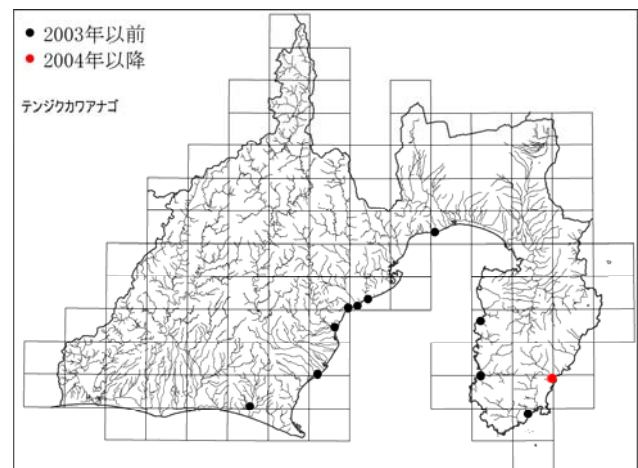
### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 43447)、宮内庁生物学研究所魚類資料 (BLIP 20101372)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI 12243)

(板井隆彦・金川直幸・北原佳郎・渋川浩一)



上：成魚 河津川水系 2017年11月26日 北原佳郎  
下：未成魚 河津川水系 2015年9月29日 北原佳郎



### 1. 種の解説

全長約 15 cm のカワアナゴ科魚類。体色は淡褐～黒褐色を呈するが、体色変化が著しい。明色時には、眼の後方・後下方に 3 本の暗色帯、胸鰭と尾鰭の基底上部に暗色斑が 1 つみられる。また、鰓蓋から腹部にかけて赤みを帯びる。頬にある横列の孔器列の 3 列目と 4 列目が、縦列の孔器列を横断する。未成魚の尾鰭は黒褐色で、周縁が細い透明帯に縁どられる。汽水域で産卵するが、繁殖期、産卵場所や成熟体長は不明。

### 2. 分布

国外ではインドー太平洋、国内では小笠原諸島、群馬県、神奈川県、静岡県、和歌山県、高知県、愛媛県、大分県、宮崎県から琉球列島に分布する。県内では西部の都田川水系笠子川、天竜川、菊川、箴川、中部の勝間田川、湯日川、大井川、瀬戸川、小坂川、新川、巴川、伊豆の青野川、河津川で確認されている。

### 3. 生息環境

河口汽水域から感潮域最上流付近の純淡水域に生息する。河口のカキ殻帯、ツルヨシなどの岸際植生付近の緩流部、砂礫底の緩流部にある石や倒木の下などでみられる。ウナギ捕獲用に石を円錐状につみあげた「いしぐろ」の中から複数の大型個体（体長 89.7～171 mm）が採集された事例もある。

### 4. 生息状況

県内では他のカワアナゴ科魚類に比べて確認頻度及び生息密度が低い。また、確認の多くは当歳魚と考えられる。中部の新川では体長 8.7 cm の成魚と考えられる個体も確認されている。

### 5. 減少の主要因と脅威

河口域や下流域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

### 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

### 7. 特記事項

記載年は Kottelat (2011) に準じた。

### 8. 主な文献

Kottelat, M. (2011) Pieter Bleeker in the Netherlands East Indies (10 March 1842 – ca. 21 September 1860) : new biographical data and a chronology of his zoological publications. *Ichthyol. Explor. Freshwaters*, 22(1): 11-94.

高橋弘明・橋本健一 (2004) 高知県で採集されたオカメハゼ *Eleotris melanosoma* Bleeker の大型個体. 南予生物, 13: 31-33

山川宇宙・瀬能 宏 (2015) 神奈川県内におけるカワアナゴ属魚類の分布. 神奈川自然誌資料, (36): 63-68

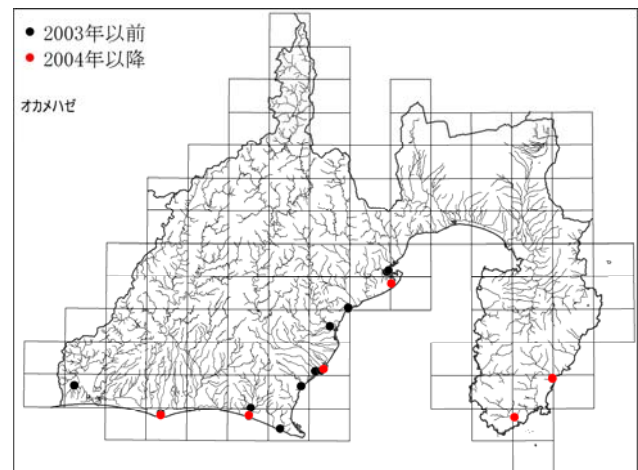
### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3288, 43460)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P 17015)、徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P 12983～12986)

(金川直幸・北原佳郎)



上：成魚 河津川水系 2018年3月27日 北原佳郎  
下：未成魚 太田川水系 2018年10月6日 北原佳郎



# カワアナゴ *Eleotris oxycephala* Temminck & Schlegel, 1845

カワアナゴ科 Eleotridae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・東部・伊豆：要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 25 cm のカワアナゴ科魚類。頬にある縦列の孔器列を横断する横列の孔器列がない。体色は淡褐～黒褐色を呈するが、変化が著しい。明色時には、頭腹面に白色の小斑が散在し、眼の後方・後下方に 2 本の暗色帯、胸鰭と尾鰭の基部に暗色斑が 2 つみられる。未成魚の尾鰭は黒褐色で、周縁が透明に縁どられる。繁殖期は 7～8 月と考えられており、野外では河口域付近にある池底の竹筒の内側面や河川下流域の石、飼育下では水槽の底や壁面、素焼き土管の内側面に球形卵を産卵した事例がある。また、孵化後満 1 年のオス個体（体長 14 cm）が成熟した事例がある。

## 2. 分布

国外では済州島、中国、国内では茨城県・福井県以西の本州、四国、九州、屋久島に分布する。県内では全域の各河川で確認されている。

## 3. 生息環境

河川汽水域から中流域に生息し、とくに淡水域でよくみられる。ヨシ類などの抽水植物や岸際植生が生育する緩流部、岩、倒木の下や河床に置かれた竹筒内などでみられる。また、「柴漬け」によって複数の稚魚・未成魚が採集されたという報告もある。

## 4. 生息状況

東部の狩野川、中部の小坂川、大幡川以西の河川では比較的多くみられる。その他の河川では生息密度はあまり高くない。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域から中流域における護岸や河床の整備(13)、河口付近の浚渫(14)による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

明仁親王(1967)は、カワアナゴ属 4 種について分類学的に比較検討し、各種の頭部孔器の配列が顕著に異なることを報告した。

## 8. 主な文献

明仁親王(1967) 日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の 4 種について. 魚類学雑誌, 14(4/5): 135-166

松尾敏生・高濱秀樹(2001) 飼育条件下で観察されたカワアナゴの求愛産卵行動. 魚類学雑誌, 48(1): 53-57

道津喜衛・藤田矢郎(1959) カワアナゴの生態・生活史. 長崎大学水産学部研究報告, 8: 191-195

道津喜衛・宮本兼夫・松尾敏生・小野幸代・高濱秀樹(2004) カワアナゴ(ハゼ亜目魚類)の採卵, 仔魚飼育と発生. 長崎大学水産学部研究報告, 85: 1-8

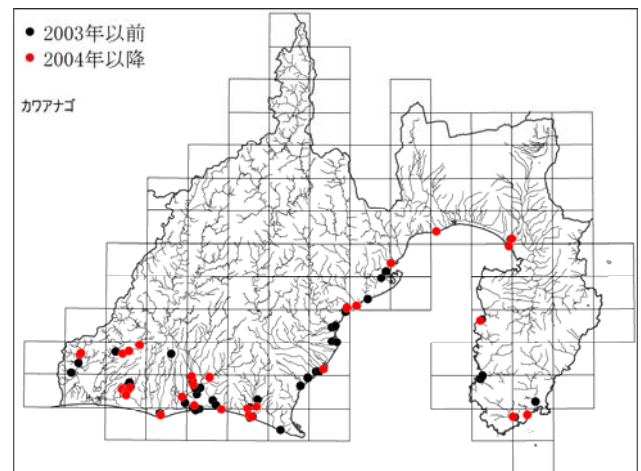
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3289, 43448)

(金川直幸・北原佳郎・渋川浩一)



上：成魚 八木沢川 2015年9月30日 北原佳郎  
下：未成魚 都田川水系 2016年7月7日 北原佳郎



# カマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* McCulloch & Waite, 1918

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 15 cm のハゼ科魚類。眼上に細くて短い糸条の突起が 1 本ある。第 1 背鰭は鎌状で基部後方に暗色斑があり、第 1 棘条が糸条に著しく伸長する。背鰭や胸鰭に顕著な暗色の点列斑紋がある。体側背部の各鱗に小黑点がある。仔魚は海域で浮遊期を過ごし、稚魚から成魚は汽水域で生息・産卵すると考えられるが、生活史の詳細については不明である。

## 2. 分布

国外では西部太平洋、国内では静岡県、和歌山県、種子島、屋久島、奄美大島、沖縄島、久米島、宮古島、石垣島、西表島に分布する。県内では西部の太田川、弁財天川、菊川、中部の波多打川で確認されている。

## 3. 生息環境

河口汽水域でみられ、泥底から砂泥底の場所を好み、泥底に巣穴を掘って生息する。

## 4. 生息状況

主に西部の河口干潟域が発達した河川でみられるが、各河川での生息密度は低い。定着の有無は不明だが、弁財天川では全長約 8.5 cm の個体が確認されていることから、越冬している可能性がある。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域における護岸整備・掘削 (13) や浚渫・干潟域の埋め立て (14)、河口域の水門建設 (25) による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

静岡県レッドデータブック (2004) の本種の項で「本種あるいはマツゲハゼと考えられる個体が中部地域の波多打川河口でえられており」との記述があるが、マツゲハゼではなく本種であることが確認されている。

## 8. 主な文献

Pezold, F. & H. K. Larson (2015) A revision of the fish genus *Oxyurichthys* (Gobioidei : Gobiidae) with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 3988(1): 1-95

前田 健・立原一憲 (2006) 沖縄島汀間川の魚類相. 沖縄生物学会誌, 44: 7-25

渋川浩一・武藤文人・鈴木寿之・藍澤正宏 (2017) 浜名湖から得られたハゼ科サルハゼ属の 1 未記載種と日本産同属魚類の分類の現状. 東海自然誌, (10): 43-55

鈴木寿之・瀬能 宏・坂本勝一・岩田明久・藍澤正宏 (2000) ナガセハゼの記録及びマツゲハゼに関する分類学の問題. 伊豆海洋公園通信, 11(6): 2-6

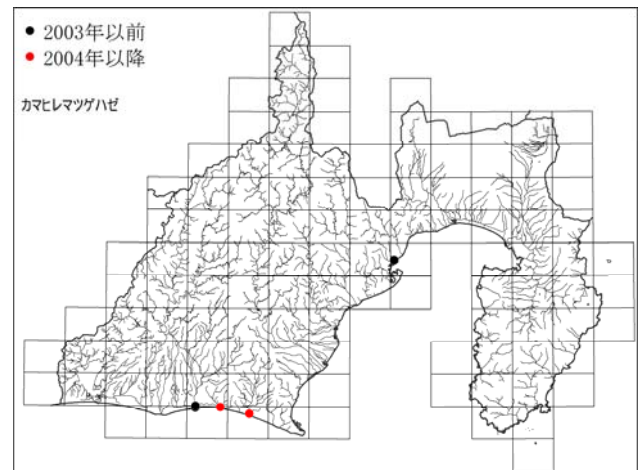
武内啓明・玉井隆章・北野 忠 (2010) 静岡県で採集されたノボリハゼ属及びサルハゼ属魚類. 南紀生物, 52(2): 105-108

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40563, 40598)、近畿大学農学部魚類資料 (KUN-P 41278, 41720)



菊川 2017年10月8日 北原佳郎



(渋川浩一・板井隆彦・北原佳郎・森口宏明)

# タネハゼ *Callogobius tanegasimae* (Snyder, 1908)

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 12 cm のハゼ科魚類。体は細長く、頭部には縦横にはしる皮質の隆起がみられる。頬と鰓蓋及び第 1 背鰭より前方の背側には鱗がない。胸鰭と尾鰭も長い。成魚の体色は茶褐色を呈するが、幼魚は乳白色地で体側に黒褐色の太い横縞模様が 2~4 本ある。汽水域で産卵し、両側回遊魚と同様に川と海を回遊していると考えられる。

## 2. 分布

国外では台湾、フィリピン、国内では神奈川県、静岡県、三重県、和歌山県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県に分布する。県内では西部の太田川、菊川、中部の勝間田川、坂口谷川、小坂川、巴川、波多打川、伊豆の西浦河内川、岩科川、青野川、大賀茂川、稲生沢川で確認されている。

## 3. 生息環境

河口付近から内湾の汽水域にかけて生息する。泥・砂泥底でカキ礁の間隙などでみられるほか、テッポウエビ類と共生する例もみられる。

## 4. 生息状況

県内では河口域の発達した河川の汽水域だけで確認されている。太田川、巴川、青野川では比較的個体数が多い。また、青野川では年間を通して確認されており、再生産していると考えられる。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因となる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

ミトコンドリア DNA 塩基配列による系統解析の結果、西表島産の個体は、和歌山県・沖縄島のものと明瞭に異なることから、沖縄諸島と八重山諸島の間での地理的隔離の存在が示唆されている。

## 8. 主な文献

荒尾一樹・大和 剛・石田 淳 (2008) 静岡県の河口域で採集された魚類。豊橋市自然史博物館研究報告, (18): 29-32

環境アセスメントセンター (2009) 水生生物生息状況等調査業務委託 (稲生沢川) 報告書。環境アセスメントセンター, 静岡, 33 pp.

向井貴彦 (2006) 日本-琉球列島のタネハゼにおけるミトコンドリア DNA の種内系統。日本生物地理学会会報, 61: 45-49

前田 健 (2016) 両側回遊とは? バリエーションから考える。海洋と生物, 38(4): 350-355

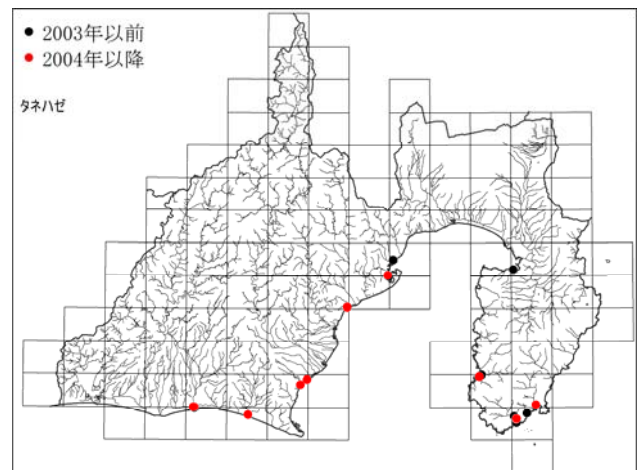
武内啓明・玉井隆章・北野 忠 (2010) 静岡県で採集されたノボリハゼ属及びサルハゼ属魚類。南紀生物, 52(2): 105-108

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40767)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NR 66802)



上：成魚 巴川 2015年5月5日 北原佳郎  
下：幼魚 小坂川 2016年8月18日 北原佳郎



(北原佳郎・渋川浩一)

# ナンヨウボウズハゼ *Stiphodon percnopterygionus* Watson & Chen, 1998

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 5 cm のハゼ科魚類。吻が丸く、口は下面に位置する。オスでは、第 1 背鰭が鎌形に伸長し、頭部が輝青緑色のものや頭部から尾柄までが輝青色のものなど色彩の変異がみられる。メスでは、第 1 背鰭が伸長せず、体側には吻端から尾柄中央と眼の後方から尾柄上端に至る黒色縦帯がみられる。雌雄ともに体長約 2 cm で成熟する。沖縄島での繁殖期は 5~12 月で、淡水域の石の下面に洋ナシ形の小型卵を産卵する。孵化後に海へ下り、2 カ月半~5 カ月で河川を遡上する。

## 2. 分布

国外では台湾、グアム、パラオ、国内では小笠原諸島、静岡県、和歌山県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県に分布する。県内では西部の菊川水系、伊豆の河津川水系で確認されている。

## 3. 生息環境

河川中流から渓流域に生息し、流れの緩やかな淵や平瀬の中層や河床の転石上でみられる。

## 4. 生息状況

全体的に個体数は少なく、個体数の年変動があるため、増減を把握しにくい。

## 5. 減少の主要因と脅威

河川改修 (13) による生息環境の悪化や消失、河口周辺の海岸整備 (14) による仔稚魚の河川加入への影響が原因と考えられる。また、観賞用に流通している例もみられるため、業者や愛好家による捕獲圧の影響 (41) も懸念される。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

これまで、本種の学名には *Stiphodon elegans* (Steindachner) があてられてきたが、Watson & Chen (1998) によって新種記載され、*Stiphodon percnopterygionus* と命名された。

## 8. 主な文献

北原佳郎 (2012) 静岡県伊豆地域で採集されたナンヨウボウズハゼ. 兵庫陸水生物, 63: 43-48

Yamasaki, N. & K. Tachihara (2006) Reproductive biology and morphology of eggs and larvae of *Stiphodon percnopterygionus* (Gobiidae : Sicydiinae) collected from Okinawa Island. Ichthyological Research, 53(1): 13-18

Yamasaki, N., K. Maeda & K. Tachihara (2007) Pelagic larval duration and morphology at recruitment of *Stiphodon percnopterygionus* (Gobiidae : Sicydiinae). The Raffles Bulletin of Zoology, supplement, 14: 209-214

Watson, R. E. & I. -S. Chen (1998) Freshwater gobies of the genus *Stiphodon* from Japan and Taiwan (Teleostei: Gobiidae: Sicydiini). *aqua*, 3(2): 55-68

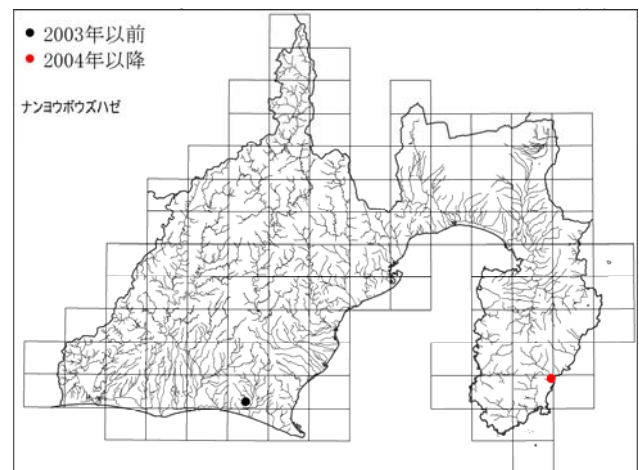
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、宮内庁生物学研究所魚類資料 (BLIP20101356~20101369)、和歌山県立自然博物館登録標本 (WMNH-2011- PIS. 289~293)

(北原佳郎・渋川浩一)



上：オス 河津川水系 2010年11月22日 北原佳郎





# ノボリハゼ *Oligolepis acutipennis* (Valenciennes, 1837)

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種): 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 9 cm のハゼ科魚類。目から上顎の後端後方に伸びる黒色帯がある。口の後端は目の後縁を越えない。体側には大小の縦列斑が交互に並ぶ。第 1 背鰭は大きく「のぼり状」で、尾鰭は尖る。仔魚は海域で浮遊期を過ごし、稚魚から成魚は汽水域で生息、産卵すると考えられるが、生活史の詳細については不明である。

## 2. 分布

国外ではインド、西部太平洋、国内では千葉県、静岡県、和歌山県、高知県、宮崎県、鹿児島県、五島列島、種子島、琉球列島に分布する。県内では西部の天竜川、太田川、弁財天川、菊川、中部の小坂川、伊豆の青野川で確認されている。

## 3. 生息環境

河口汽水域でみられ、泥底から砂泥底の場所を好み、泥底に巣穴を掘って生息する。

## 4. 生息状況

主に河口干潟域が発達した河川でみられるが、各河川での生息密度は低い。定着の有無は不明であるが、菊川では全長約 7 cm の個体が確認されていることから、越冬している可能性がある。

## 5. 減少の主要因と脅威

本種の個体数減少は、河口域における護岸整備・掘削 (13) や浚渫・干潟域の埋め立て (14)、河口域の水門建設 (25) による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

日本では、本属の種は本種とクチサケハゼ *Oligolepis stomias* の 2 種が分布する。クチサケハゼは静岡県でも確認されており、本種と同所で採集される例が多い。

## 8. 主な文献

北原佳郎 (2008) 静岡県伊豆地域初記録の魚類. 南紀生物, 50(1): 85-90

前田 健・立原一憲 (2006) 沖縄島汀間川の魚類相. 沖縄生物学会, 44: 7-25

リバーフロント整備センター 編 (2006) 中部の河川魚類図鑑. 国土交通省中部地方整備局中部技術事務所, 名古屋, 16 + 146 + 69 + 12 pp.

武内啓明・玉井隆章・北野 忠 (2010) 静岡県で採集されたノボリハゼ属及びサルハゼ属魚類. 南紀生物, 52(2): 105-108

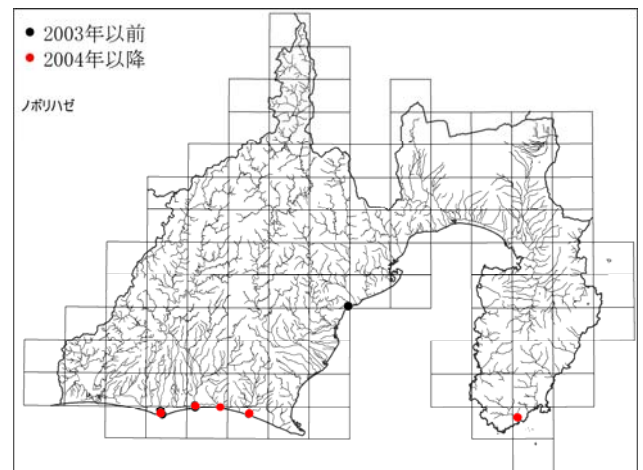
## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 43454)、宮内庁生物学研究所魚類資料 (BLIP 20070245)、近畿大学農学部魚類資料 (KUN-P 41715~41717)

(渋川浩一・板井隆彦・北原佳郎・森口宏明)



菊川 2010年11月24日 森口宏明



# ヒナハゼ *Redigobius bikolanus* (Herre, 1927)

ハゼ科 Gobiidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)/ 西部・中部・東部・伊豆 要注目種(N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

全長約 3 cm の小型のハゼ科魚類。体は側扁して体高が高い。体側には黒色斑が並び、鱗の外縁が褐色に縁どられる。成熟したオスは頭部が大きく発達して下顎後端が眼の後縁を越えるほか、第 1 背鰭が伸長する。繁殖期は、沖縄島では 4~12 月、四国では 7~9 月で、県内の状況については不明である。汽水域潮間帯から淡水域のカキ殻の内側や石の底面に長楕円形の小型卵を産卵する。オスは孵化後約 3 カ月で 2 次性徴を示し体長 19.8 mm 以上、メスは体長 18 mm で成熟する。

## 2. 分布

国外では台湾、サイパン島、バリ島、ニューカレドニア、南アフリカ、国内では太平洋側では東京湾から西表島、日本海側では福井県、兵庫県、隠岐、対馬、五島列島に分布する。県内では西部の馬込川、天竜川、太田川、弁財天川、菊川、箴川、中部の萩間川、勝間田川、坂口谷川、栃山川、瀬戸川、小坂川、新川、巴川、庵原川、波多打川、東部の狩野川、塚田川、伊豆の西浦河内川、岩科川、青野川、大賀茂川、稲生沢川、河津川、伊東大川などで確認されている。

## 3. 生息環境

河口汽水域から感潮域最上流に生息し、泥・砂泥底でカキ礁がある場所、淵などの泥底の緩流部、ツルヨシなどの岸際植生付近でみられる。

## 4. 生息状況

河口域が発達した河川では個体数が多く、周年みられるほか、当歳魚を含むさまざまな体サイズの個体も確認されており、再生産していると考えられる。

## 5. 減少の主要因と脅威

河口汽水域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

## 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

## 7. 特記事項

かつては、ピコールヒナハゼ *Gobius bikolana*、イチマツハゼ *Stigmatogobius minutus* などとされていたが、明仁親王・目黒 (1975) による分類学的検討によって現在の和名・学名が妥当であると報告された。

## 8. 主な文献

明仁親王・目黒勝介 (1975) ヒナハゼの学名について. 魚類学雑誌, 22(1): 49-52

道津喜衛・深川元太郎・吉田隆男・濱崎将臣 (2008) ヒナハゼ (ハゼ科魚類) の生活史研究. 長崎県生物学会誌, 64: 48-62

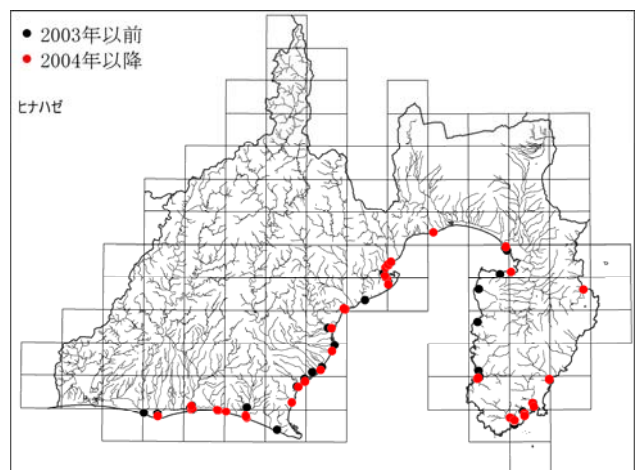
前田 健・山崎 望・立原一憲 (2004) 沖縄島におけるヒナハゼの生活史. 2004 年度日本魚類学会年会講演要旨: 55

## 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 3248, 3292, 40626, 40762, 434561, 43468)、宮内庁生物学研究所魚類資料 (BLIP 20101376)、横須賀市自然博物館魚類資料 (YCM-P 17021~29)、和歌山県立自然博物館登録標本 (WNNH-2011-PIS. 295~300)



萩間川 2015年6月24日 北原佳郎  
上: オス 下: メス



(金川直幸・板井隆彦・北原佳郎・渋川浩一)

### 1. 種の解説

全長約 5 cm の小型のハゼ科魚類。体色は黒褐色、胸鰭基部上部に三角形の白色斑があり、体側には柿色の小斑が散在する。第 1 背鰭は雌雄ともに伸長せず、中央に透明帯があり、オスでは黒色斑がある。繁殖期は 7~9 月で、汽水域の石の下面やカキ殻内に長楕円形の小型卵を産卵する。成長がよいものでは孵化後満 1 年で繁殖に加わると考えられる。

### 2. 分布

国外の記録は、標本に基づく慎重な検討が必要である。国内では千葉県、神奈川県、静岡県、三重県、和歌山県、徳島県、高知県、愛媛県、長崎県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県に分布する。県内では西部の馬込川、太田川、菊川、弁財天川、中部の萩間川、勝間田川、坂口谷川、小坂川、巴川、庵原川、伊豆的那賀川水系岩中島川、青野川、稲生沢川など、河口域の発達した河川で確認されている。

### 3. 生息環境

河口付近から内湾の汽水域に生息し、泥底から砂泥底でカキ礁がみられる場所などでみられる。

### 4. 生息状況

県内では、生息密度が高い河川は少ないが、青野川では個体数が多く、周年みられるほか、産卵事例や当歳魚も確認されており、再生産していると考えられる。

### 5. 減少の主要因と脅威

河口域における護岸整備 (13) や浚渫 (14) による生息環境の悪化や消失が原因と考えられる。

### 6. 保護対策

特別な保護対策はとられていない。

### 7. 特記事項

明仁親王 (1984) によって学名 (種小名) 不詳のまま和名が付された。未記載種と思われ、現在、渋川らによって分類学的検討がなされている。

### 8. 主な文献

北原佳郎・板井隆彦 (2006) 静岡県におけるクロコハゼ *Drombus* sp. の分布及び定着状況. 2006 年度日本魚類学会年会講演要旨: 66

Onikura, N., R. Inui, K. Eguchi, T. Nishida & J. Nakajima (2008) Spawning site of “Kuroko-haze” (*Drombus* sp.) (Pisces, Gobiidae) in eastern Kyushu Island, Japan : New record from the field. *Biogeography*, 10: 13-16

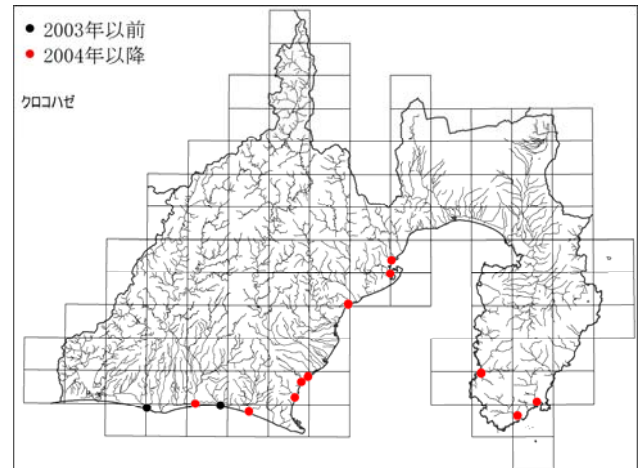
Shibukawa, K., T. Suzuki & H. Senou (2013) Diversity of sand or sandy mud-dwelling gobiine genera in brackish estuaries and adjacent areas in southern Japan. Abstracts of 9th Indo-Pacific Fish Conference: 21

### 9. 標本

ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI 40765)、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI 16633)



上：オス 太田川 2015年10月10日 北原佳郎  
下：メス 勝間田川 2015年6月28日 北原佳郎



(北原佳郎・渋川浩一)